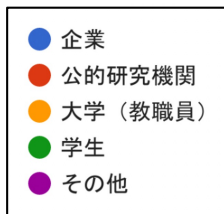
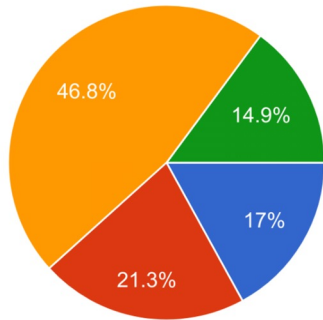
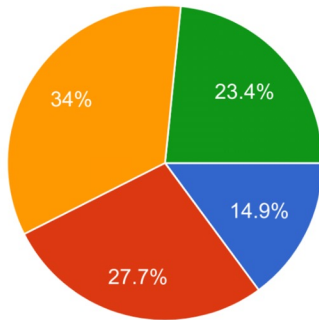


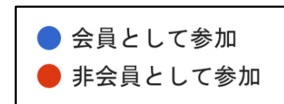
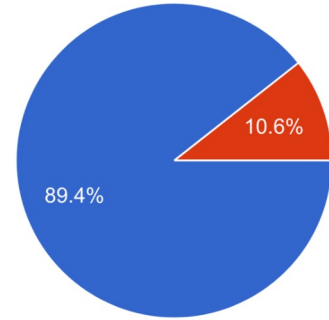
## 所属



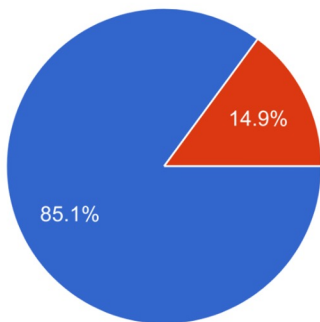
## 年代



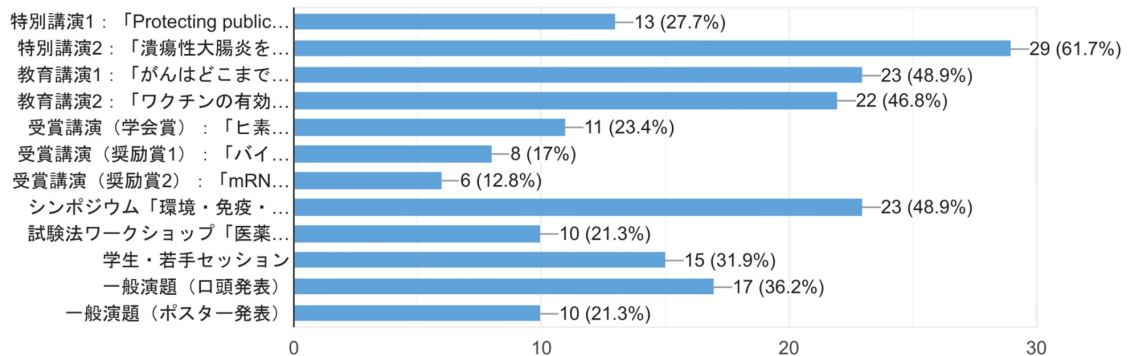
## 参加条件



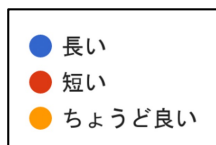
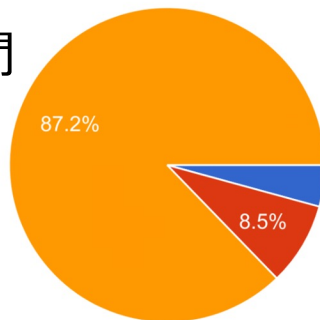
## 総評



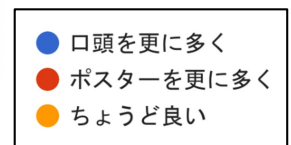
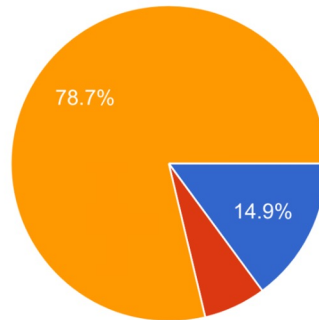
## 興味を持った講演やセッション（複数回答）



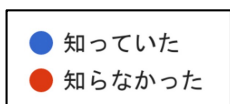
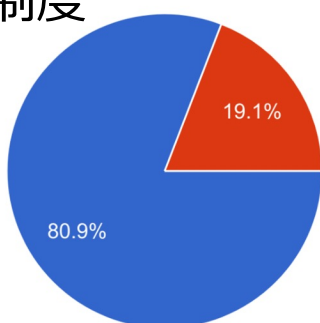
## 発表時間



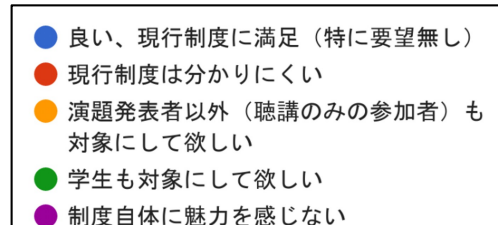
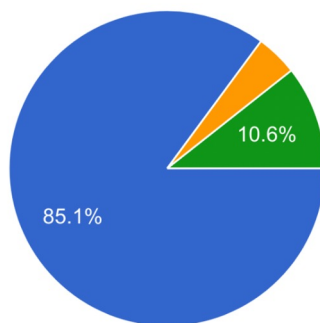
## 口頭とポスターの比率



## 非会員の入会初年度 年会費無料制度 の認知度



## 非会員の入会初年度 年会費無料制度 についての要望



年代	所属	参加条件	総評	2.1) ②-a 興味を持たれた講演やセッションはどれでしょうか？	②-b 左記中で特に興味を持たれた演題について聞かせてください。
50歳以上	企業	会員として参加	★★★	教育講演1:「がんはどこまで防げるのか」、教育講演2:「ワクチンの有効性と安全性の考え方:疫学の視点から」、受賞講演(奨励賞1):「バイオ医薬品開発におけるヒト安全性予測向上を目指した非臨床免疫毒性・免疫原性研究」、シンポジウム「環境・免疫・疾患」、試験法ワークショップ「医薬品分子様式の多様化から見てきた免疫毒性評価の課題」、一般演題(口頭発表)、一般演題(ポスター発表)	S-04 がん病態が増悪する免疫チェックポイント阻害剤に対するアナフィラキシー
	公的研究機関	会員として参加	★★★	特別講演1:「Protecting public health from per- and polyfluoroalkyl substances: Focus on Immunotoxicity」、特別講演2:「潰瘍性大腸炎をインジゴで治療する“光と陰”」、教育講演1:「がんはどこまで防げるのか」、教育講演2:「ワクチンの有効性と安全性の考え方:疫学の視点から」、受賞講演(学会賞):「ヒ素曝露による健康被害における免疫機能の攪乱」、受賞講演(奨励賞1):「バイオ医薬品開発におけるヒト安全性予測向上を目指した非臨床免疫毒性・免疫原性研究」、受賞講演(奨励賞2):「mRNA安定性制御機構を介する免疫毒性の研究」、シンポジウム「環境・免疫・疾患」、試験法ワークショップ「医薬品分子様式の多様化から見てきた免疫毒性評価の課題」、学生・若手セッション、一般演題(口頭発表)、一般演題(ポスター発表)	
		会員として参加	★★★	特別講演1:「Protecting public health from per- and polyfluoroalkyl substances: Focus on Immunotoxicity」、特別講演2:「潰瘍性大腸炎をインジゴで治療する“光と陰”」	
		会員として参加	★★★	特別講演1:「Protecting public health from per- and polyfluoroalkyl substances: Focus on Immunotoxicity」、特別講演2:「潰瘍性大腸炎をインジゴで治療する“光と陰”」、受賞講演(学会賞):「ヒ素曝露による健康被害における免疫機能の攪乱」、シンポジウム「環境・免疫・疾患」、一般演題(口頭発表)	シンポジウム
	大学(教職員)	会員として参加	★★★	教育講演2:「ワクチンの有効性と安全性の考え方:疫学の視点から」、受賞講演(奨励賞1):「バイオ医薬品開発におけるヒト安全性予測向上を目指した非臨床免疫毒性・免疫原性研究」、受賞講演(奨励賞2):「mRNA安定性制御機構を介する免疫毒性の研究」、シンポジウム「環境・免疫・疾患」、学生・若手セッション、一般演題(ポスター発表)	特別講演1「Protecting public health from per- and polyfluoroalkyl substances: Focus on Immunotoxicity」
		会員として参加	★★★	特別講演1:「Protecting public health from per- and polyfluoroalkyl substances: Focus on Immunotoxicity」、特別講演2:「潰瘍性大腸炎をインジゴで治療する“光と陰”」、教育講演1:「がんはどこまで防げるのか」、教育講演2:「ワクチンの有効性と安全性の考え方:疫学の視点から」、受賞講演(学会賞):「ヒ素曝露による健康被害における免疫機能の攪乱」、受賞講演(奨励賞1):「バイオ医薬品開発におけるヒト安全性予測向上を目指した非臨床免疫毒性・免疫原性研究」、受賞講演(奨励賞2):「mRNA安定性制御機構を介する免疫毒性の研究」、シンポジウム「環境・免疫・疾患」、試験法ワークショップ「医薬品分子様式の多様化から見てきた免疫毒性評価の課題」、学生・若手セッション、一般演題(口頭発表)、一般演題(ポスター発表)	学生若手
		非会員として参加	★★★	特別講演2:「潰瘍性大腸炎をインジゴで治療する“光と陰”」	
		会員として参加	★★★	特別講演2:「潰瘍性大腸炎をインジゴで治療する“光と陰”」、教育講演1:「がんはどこまで防げるのか」、教育講演2:「ワクチンの有効性と安全性の考え方:疫学の視点から」、受賞講演(学会賞):「ヒ素曝露による健康被害における免疫機能の攪乱」、受賞講演(奨励賞2):「mRNA安定性制御機構を介する免疫毒性の研究」、シンポジウム「環境・免疫・疾患」、試験法ワークショップ「医薬品分子様式の多様化から見てきた免疫毒性評価の課題」、学生・若手セッション、一般演題(口頭発表)、一般演題(ポスター発表)	
		会員として参加	★★★	シンポジウム「環境・免疫・疾患」、学生・若手セッション	
		会員として参加	★★★	特別講演1:「Protecting public health from per- and polyfluoroalkyl substances: Focus on Immunotoxicity」、特別講演2:「潰瘍性大腸炎をインジゴで治療する“光と陰”」、教育講演1:「がんはどこまで防げるのか」、シンポジウム「環境・免疫・疾患」	寄生虫感染による自己免疫疾患抑制のメカニズム
		会員として参加	★★★	特別講演1:「Protecting public health from per- and polyfluoroalkyl substances: Focus on Immunotoxicity」、特別講演2:「潰瘍性大腸炎をインジゴで治療する“光と陰”」、教育講演1:「がんはどこまで防げるのか」	
	40歳代	企業	会員として参加	★★★	特別講演2:「潰瘍性大腸炎をインジゴで治療する“光と陰”」、教育講演2:「ワクチンの有効性と安全性の考え方:疫学の視点から」、試験法ワークショップ「医薬品分子様式の多様化から見てきた免疫毒性評価の課題」
会員として参加			★★★	特別講演2:「潰瘍性大腸炎をインジゴで治療する“光と陰”」、教育講演1:「がんはどこまで防げるのか」、教育講演2:「ワクチンの有効性と安全性の考え方:疫学の視点から」、シンポジウム「環境・免疫・疾患」、試験法ワークショップ「医薬品分子様式の多様化から見てきた免疫毒性評価の課題」	S-05 抗体薬物複合体の非標的細胞における毒性に関する研究
非会員として参加			★★	一般演題(口頭発表)、一般演題(ポスター発表)	OY-05 遺伝子改変マウスを用いた組織常在マクロファージの免疫学的解析
公的研究機関		会員として参加	★★★	特別講演2:「潰瘍性大腸炎をインジゴで治療する“光と陰”」、教育講演1:「がんはどこまで防げるのか」、教育講演2:「ワクチンの有効性と安全性の考え方:疫学の視点から」、受賞講演(学会賞):「ヒ素曝露による健康被害における免疫機能の攪乱」、シンポジウム「環境・免疫・疾患」	
		会員として参加	★★	特別講演1:「Protecting public health from per- and polyfluoroalkyl substances: Focus on Immunotoxicity」、教育講演1:「がんはどこまで防げるのか」、学生・若手セッション	
		会員として参加	★★★	教育講演1:「がんはどこまで防げるのか」、受賞講演(学会賞):「ヒ素曝露による健康被害における免疫機能の攪乱」、一般演題(口頭発表)	
		非会員として参加	★★	試験法ワークショップ「医薬品分子様式の多様化から見てきた免疫毒性評価の課題」	
40歳代		非会員として参加	★★★	特別講演1:「Protecting public health from per- and polyfluoroalkyl substances: Focus on Immunotoxicity」、特別講演2:「潰瘍性大腸炎をインジゴで治療する“光と陰”」、学生・若手セッション、一般演題(口頭発表)、一般演題(ポスター発表)	
		会員として参加	★★★	特別講演1:「Protecting public health from per- and polyfluoroalkyl substances: Focus on Immunotoxicity」、特別講演2:「潰瘍性大腸炎をインジゴで治療する“光と陰”」、教育講演1:「がんはどこまで防げるのか」、教育講演2:「ワクチンの有効性と安全性の考え方:疫学の視点から」、学生・若手セッション	ON-01 Ni結合タンパク質CXCL4とVitaminD3誘導体はNiアレキシーに対する舌下免疫療法を増強する
		会員として参加	★★★	特別講演2:「潰瘍性大腸炎をインジゴで治療する“光と陰”」、教育講演1:「がんはどこまで防げるのか」、教育講演2:「ワクチンの有効性と安全性の考え方:疫学の視点から」、シンポジウム「環境・免疫・疾患」	「潰瘍性大腸炎をインジゴで治療する“光と陰”」

大学 (教職員)	会員として参加	★★★	特別講演2:「潰瘍性大腸炎をインジゴで治療する“光と陰”」,教育講演2:「ワクチンの有効性と安全性の考え方:疫学の視点から」,シンポジウム「環境・免疫・疾患」,学生・若手セッション,一般演題(口頭発表)	学生若手
	会員として参加	★★★	シンポジウム「環境・免疫・疾患」,学生・若手セッション,一般演題(口頭発表)	S-02 武村先生
	会員として参加	★★	シンポジウム「環境・免疫・疾患」	新しい情報が聞けました。ありがとうございます。
	非会員として参加	★★★	特別講演2:「潰瘍性大腸炎をインジゴで治療する“光と陰”」,教育講演1:「がんはどこまで防げるのか」,教育講演2:「ワクチンの有効性と安全性の考え方:疫学の視点から」,シンポジウム「環境・免疫・疾患」	
	会員として参加	★★★	特別講演2:「潰瘍性大腸炎をインジゴで治療する“光と陰”」,教育講演1:「がんはどこまで防げるのか」,受賞講演(学会賞):「ヒ素曝露による健康被害における免疫機能の攪乱」,シンポジウム「環境・免疫・疾患」,学生・若手セッション,一般演題(口頭発表),一般演題(ポスター発表)	
	会員として参加	★★★	特別講演2:「潰瘍性大腸炎をインジゴで治療する“光と陰”」,教育講演2:「ワクチンの有効性と安全性の考え方:疫学の視点から」,シンポジウム「環境・免疫・疾患」,学生・若手セッション,一般演題(口頭発表)	教育講演2、S-02、ON-03
企業	会員として参加	★★★	特別講演2:「潰瘍性大腸炎をインジゴで治療する“光と陰”」,教育講演1:「がんはどこまで防げるのか」,受賞講演(奨励賞1):「バイオ医薬品開発におけるヒト安全性予測向上を目指した非臨床免疫毒性・免疫原性研究」,試験法ワークショップ「医薬品分子様式の多様化から見えてきた免疫毒性評価の課題」,一般演題(口頭発表),一般演題(ポスター発表)	
	会員として参加	★★★	受賞講演(奨励賞1):「バイオ医薬品開発におけるヒト安全性予測向上を目指した非臨床免疫毒性・免疫原性研究」,試験法ワークショップ「医薬品分子様式の多様化から見えてきた免疫毒性評価の課題」	
	会員として参加	★★★	特別講演2:「潰瘍性大腸炎をインジゴで治療する“光と陰”」,教育講演1:「がんはどこまで防げるのか」,教育講演2:「ワクチンの有効性と安全性の考え方:疫学の視点から」,受賞講演(奨励賞1):「バイオ医薬品開発におけるヒト安全性予測向上を目指した非臨床免疫毒性・免疫原性研究」	
	会員として参加	★★★	特別講演2:「潰瘍性大腸炎をインジゴで治療する“光と陰”」	
公的研究機関	会員として参加	★★★	特別講演2:「潰瘍性大腸炎をインジゴで治療する“光と陰”」,教育講演1:「がんはどこまで防げるのか」,教育講演2:「ワクチンの有効性と安全性の考え方:疫学の視点から」,シンポジウム「環境・免疫・疾患」	教育講演2:「ワクチンの有効性と安全性の考え方:疫学の視点から」
	会員として参加	★★★	受賞講演(奨励賞1):「バイオ医薬品開発におけるヒト安全性予測向上を目指した非臨床免疫毒性・免疫原性研究」,シンポジウム「環境・免疫・疾患」,試験法ワークショップ「医薬品分子様式の多様化から見えてきた免疫毒性評価の課題」	試験法ワークショップ
30歳代	会員として参加	★★★	特別講演2:「潰瘍性大腸炎をインジゴで治療する“光と陰”」,教育講演2:「ワクチンの有効性と安全性の考え方:疫学の視点から」,受賞講演(学会賞):「ヒ素曝露による健康被害における免疫機能の攪乱」	
	会員として参加	★★★	特別講演1:「Protecting public health from per- and polyfluoroalkyl substances: Focus on Immunotoxicity」,特別講演2:「潰瘍性大腸炎をインジゴで治療する“光と陰”」,教育講演1:「がんはどこまで防げるのか」,教育講演2:「ワクチンの有効性と安全性の考え方:疫学の視点から」,受賞講演(学会賞):「ヒ素曝露による健康被害における免疫機能の攪乱」,シンポジウム「環境・免疫・疾患」	
	会員として参加	★★★	特別講演2:「潰瘍性大腸炎をインジゴで治療する“光と陰”」,教育講演1:「がんはどこまで防げるのか」,教育講演2:「ワクチンの有効性と安全性の考え方:疫学の視点から」,受賞講演(学会賞):「ヒ素曝露による健康被害における免疫機能の攪乱」,シンポジウム「環境・免疫・疾患」,一般演題(口頭発表)	シンポジウム「環境・免疫・疾患」の畠山浩人先生の講演
	会員として参加	★★★	特別講演1:「Protecting public health from per- and polyfluoroalkyl substances: Focus on Immunotoxicity」,特別講演2:「潰瘍性大腸炎をインジゴで治療する“光と陰”」,教育講演1:「がんはどこまで防げるのか」,シンポジウム「環境・免疫・疾患」,一般演題(ポスター発表)	特別講演2
	会員として参加	★★★	教育講演1:「がんはどこまで防げるのか」,受賞講演(学会賞):「ヒ素曝露による健康被害における免疫機能の攪乱」	
	会員として参加	★★	特別講演1:「Protecting public health from per- and polyfluoroalkyl substances: Focus on Immunotoxicity」,特別講演2:「潰瘍性大腸炎をインジゴで治療する“光と陰”」,教育講演2:「ワクチンの有効性と安全性の考え方:疫学の視点から」,受賞講演(奨励賞2):「mRNA 安定性制御機構を介する免疫毒性の研究」,一般演題(口頭発表)	
	会員として参加	★★★	特別講演2:「潰瘍性大腸炎をインジゴで治療する“光と陰”」,教育講演2:「ワクチンの有効性と安全性の考え方:疫学の視点から」,受賞講演(奨励賞2):「mRNA 安定性制御機構を介する免疫毒性の研究」,学生・若手セッション	潰瘍性大腸炎をインジゴで治療する“光と陰”
	会員として参加	★★	教育講演2:「ワクチンの有効性と安全性の考え方:疫学の視点から」,学生・若手セッション,一般演題(口頭発表)	
20歳代以下	会員として参加	★★	教育講演1:「がんはどこまで防げるのか」	
	会員として参加	★★★	特別講演2:「潰瘍性大腸炎をインジゴで治療する“光と陰”」	
	会員として参加	★★★	シンポジウム「環境・免疫・疾患」	
	会員として参加	★★★	特別講演1:「Protecting public health from per- and polyfluoroalkyl substances: Focus on Immunotoxicity」,学生・若手セッション,一般演題(口頭発表)	
	会員として参加	★★★	教育講演1:「がんはどこまで防げるのか」	
	会員として参加	★★★	教育講演2:「ワクチンの有効性と安全性の考え方:疫学の視点から」	

年代	所属	参加条件	総評				
			2.1) ⑤ その他感想等ありましたら御願います。	2.2) ② 学術年会Web開催の今後のあり方について、今後取り上げてほしいテーマ、若手セッションのあり方、パナー広告主からの情報（事務局送信メール文末のJSIT BLINC News）への興味、他ご意見下さい。	3. 日本免疫毒性学会の今後の活動や方向性等について、ご意見やご提案等ありましたら、ご記入ください。	4. ImmunoTox Letter (6月と12月の年に2回発行している学会誌; 日本版と英語版があり、それぞれのpdf版を学会HPに掲載中)について、ご意見、ご提案等ありましたらご記入ください。	
50歳以上	公的研究機関	会員として参加	★★★			学会として、ガイドライン化への対応について提言が出せれば良いと思います。	
		会員として参加	★★★	シンポジウムの時間が少し長く感じました。学生・若手セッションは質疑の時間が短すぎるので、ポスターと両方というよりは口頭発表の時間を一般演題と同様に設けた方が良いと思いました。今回、要旨集の送付の有無や発表要領の案内が比較的遅い印象があったのと、案内がHP上のみでしたので、メールでの案内もあった方が良かったと思います。			
		会員として参加	★★★	特にありませんでした。	特にありませんでした。	若い研究者が多く参加されればとても良いと思います。	良かったと思います。
	大学(教職員)	会員として参加	★★★	学生若手のレベルが高くて楽しかった。	対面を終えると、もうWebはもういいかな?と思いました。	年々楽しくなってきました。	だんだん面白くなってると思います。
		非会員として参加	★★★	学生の口頭発表6分がちょっと短いと思いました。			
		会員として参加	★★★		基本は対面にして、ハイブリッド形式で講演内容をオンラインでも聞くことができると、企業や大学の規定等で出張できない参加者にとってありがたいのではないかと。ただ、ハイブリッドの実施は、主催者にとっては大変なので、可能な限りで。		
40歳代	企業	会員として参加	★★★	活発な意見交換がなされていて非常に有意義であった。			
	公的研究機関	会員として参加	★★	日程的に難しいとは思いますが、もう少し合間に話ができるような時間があると良いと思いました。休憩時間が少ない印象でした。			
		会員として参加	★★★	演者の発表が終わるごとに、拍手があつたりなかったりしましたが、基本的に全員拍手があつたほうが良かったのでは、と思いました。	聴講は現地のみ、発表はハイブリッド可、という形が望ましい	抗薬物抗体(ADA)等に関する研究発表を増やしてほしい	ImmunoTox Letterの内容がネット検索でヒットするようにしてほしい
	大学(教職員)	会員として参加	★★★	シンポジウムはテーマを決めて演者数3-4名のほうがまとまりがあるのと、質疑・交流・企業展示回遊の時間を増やせるので、良いのではと思います。	現地開催で参加する方が、発表や情報収集だけでなく、様々な情報交換・意見交換、他者との交流、ができることを再認識しました。	免疫毒性学会参加者の裾野が広がると共に、「免疫毒性」の核心的部分についてはブレない、この両輪が重要。学会および学術領域の意義が社会へ一層認知されることを期待します。	以下の2つの企画を提案します。 1) 突撃!隣の実験室(編集委員長がしゃもじ?でなくビペットを片手に突撃したというテイで、ある研究者の実験室の実験風景を紹介してもらい、研究者は次の訪問先を推薦して終了する(乞うご期待!))、といった内容)、2) トライアングルトーク「噂の真相」(大学⇄企業⇄研究所間で他者について、それってどうなの??、っていう質問を募集し、当該他者にGoogleフォームで質問を投げかけて、その回答を下にして噂の真相に迫るコーナー)
		会員として参加	★★★	他学会と比較しても、学生若手のレベルが高い			
会員として参加		★★★		その時の状況にももちろんありますが、学術年会は是非対面開催を希望いたします。			
会員として参加	★★★	新型コロナウイルスの感染が収まらない中、3年ぶりの現地開催でありましたが、盛況のうち無事開催できたことは、事務局の皆様のご尽力の賜物のと存じます。本当にありがとうございました。	試験法ワークショップについて、その内容と開催日程(最終日の最終セッション)から、企業の皆様の出席は多いのですが、大学関係者の出席が少ないように感じますが、将来的な応用を見据えた場合、思わぬヒントを得ることも出来るワークショップだと思っています。日程を調整するなどして、学会参加者の出席率を上げる工夫をしてみたいかがでしょうか。	小規模の学会である長所として非常に密な関係を構築しやすいことが挙げられます。その一方で、この長所は排他的となる危険性もあると思います。現段階ではこの様な短所はみられず、比較的新参者である私にも、多くの先輩会員の皆様がフレンドリーに接して下さい。今後、学もオープンでフレンドリーな学会環境を維持できる様、私自身も努めていきたいと思っています。	実験方法のヒントなどを加えてみてはいかがでしょうか。肩ひじ張らずに、気楽に読める内容が良いと思います。		

30歳代	大学（教職員）	会員として参加	★★★	もう少し、シンポジウムは短くてもいいと思いました。ちょっと、長かったです。		企業展示を見ている時間がないように思えます。もう少し、展示の方のことを考えてあげてもよいのではないのでしょうか。	
		会員として参加	★★★	ポスターディスカッションの時間が短かった。また、ポスター発表者は他のポスターで議論をする時間がなかった。			
		会員として参加	★★★	ポスター発表者は示説時間が同時でしたので、せめて半分ずつに分けて他の人の発表を聞きに行けるようにしていただきかったです。		スケジュールが割とタイトでしたので、将来的には会期を（がん免疫学会のような）2日半にしていただけたらもっと参加しやすくなるのではないかと感じました。	
20歳代以下	学生	会員として参加	★★★	ポスターセッションで発表者がずっとポスター前に待機していないといけないのが不満です。発表者も、他のポスター発表者とディスカッションができるように前半と後半に分けてほしいです。			